

い方は何世帯ぐらいあるのか。

A 都市建設部長 現在、4世帯の方が県営住宅などに避難しております。

Q 災害に強い安全な地域づくりを構築する上で、被害状況と合わせ、風評被害などの損害金額など調査し、残すべきと考えますが。

A 市長 小川議員には、心からお見舞い申し上げますとともに、地域のリーダーとして積極的に御貢献されたことを感謝申し上げます。数字につきましてはこれからしっかりとつかみまして、被害を総括し、将来の役に立つような形で残してまいります。

Q 国、県への要望とその内容について。

A 総務部長 木戸川堤防の決壊箇所を早期復旧と防災面を視点に入れた防災道路の建設要望。放射性物質に対する監視体制や情報の提供。合併特例債の期間の延長などです。

Q 木戸川堤防と波乗り道路の要望内容に

ついて。

A 都市建設部長 木戸川の本復旧については、河口から緑海橋上流の護岸とかさ上げについてです。7月上旬に国の査定を受けた後、本格的な工事に着手すると聞いております。

A 市長 防災道路について、九十九里有料道路が津波を食い止める一定の役割を果たした現実を考え、横芝光町、匝瑳市、旭市にお話を申し上げ、要望活動をさらに発展させ、将来的には期成同盟を組めればと考えている。

Q 国、県の各種支援内容と被災者への見舞金支給時期について。

A 総務部長 国の被災者生活再建支援制度では、全壊の判定で100万円、大規模半壊が50万円です。

A 保健福祉部長 県の見舞金制度は、弔慰金10万円、重傷を負った方3万円、全壊世帯50万円、支給時期についてはまだ決まっております。また、新たに液化化の見

舞金等が加わるようになります。市独自の見舞金は、201件の支給を予定しております。県からの義援金、1次配分として3千800万円が配布されております。義援金については、今後、2次、3次配分が執行される予定です。

Q 風評被害・放射能による被害状況と観光などへの影響はどうか。

A 経済環境部長 このたびの震災により、山武市の経済活動についても多大な損害が生じております。地震と津波による直接的な被害ばかりでなく、原発事故に伴う放射性物質による風評被害、自粛ムードに伴う観光施設飲食店等への入り込み数の減少などがあります。成東観光いちご組合では前年比30%以下に落ち込んだと聞いております。また宿泊施設の復旧作業に伴う休業に加え、自粛ムード、津波の恐怖からキャンセルが相次いでいると伺っております。また、農作物に関しては、

葉物野菜の出荷制限を機に、千葉県全域の野菜が暴落いたしました。山武市では6月3日に成東海岸、蓮沼海岸の海水の調査をいたしましたけれども、いずれも放射性物質は検出されておられません。

Q 地元・都会に住むボランティア協働による県有林の再生・保全事業など、復興を新たな地域づくり元年として位置づけた取り組みはどうか。

A 市長 ご提案ありがとうございます。私も、今年を復興元年と考えています。私どもも、1千500人を超えるボランティアの皆様方にお手伝いをいただいたというところで、本当にありがとうございます。

このボランティア活動が果たす役割というのは大変大きいということを実感いたしました。

木戸川の河川改修及び防災道路の要望に合わせ、九十九里海岸の砂防林につきましてもしっかりと再生を図っていかねければならないと考えて

います。ぜひともこのボランティアの皆様方にお手伝いをいただくというアイデアを活かしていただければ、行政の力プラス、市民の皆様力が合わさって、すばらしいスピードで再生が図れるのではないかと考えております。これからもそういう姿勢で、復興に向けて頑張っていきたいと思っておりますので、どうか今後ともよろしく願います。

個人質問



齋藤 悟朗 議員

●さんむ医療センターについて

Q 国民年金で入れるぐらいの施設を、さんむ医療センターに作っていただきたい。

A 市長 休止をしている南棟の2階を老健施設として使おうという計画がありました。その後、いろいろ制度が動き、病院としては回復期リハ

病棟を作るのが先だと変わらしまして、現在、作業を進めています。

Q 我々も年をとっていく中で、これから山武市にも相当そういう方がおられると思うんです。ただ、お金があつて、入れる人はいいんです。入れない人がいるんです。そういう方々のために、もそういう施設を造らな中になつてしまふ。ぜひとも合併特例債を使って、市長、決断をしていただきたいんですが。

A 市長 これから基本計画の見直しもありませんし、重要な問題です。シミュレーションをして、議会とも意思の疎通を図りながら意思決定をさせてもらいたいと思っております。

●青少年育成について

Q 少年野球、サッカー、剣道など、ボランティアで教えてくれる方々がいる。予算の割り振りを、毎年同じくやっていないで、削れるものは各部に削つてもらって、増やすものは増